

# 会議録

件名	令和2年度酒田市防災会議		
日時	令和3年2月19日(金) 10:00～11:30	場所	酒田市役所3階 第1・第2委員会室
出席者	<p>防災会議委員：中里剛、池田武司、辰己屋誠、栗田邦明、菅太、久我谷朋宏、高橋守、蘆野吉和、高橋博美、田中愛久、宮崎和幸、大沼康浩、大谷謙治、菊池裕基、白畑真由美、藤井昌道、竹越攻征、莊司忠和、本間優子、佐藤和彦、五十嵐慎一、武田長司、阿部直善、加藤健司、佐藤広一、富樫善弘、有原敏昭、酒井見吾、前田英樹、神田直弥、斉藤憲吾、池田昌子、佐藤やす子、佐藤多紀子、齋藤彩、土門真琴、原誠宏(代理)、小林信昭(代理)</p> <p>事務局：那須危機管理監、前田危機管理課長、斎藤課長補佐、伊藤上席専門員、後藤危機管理係長、菊地主任、丸藤主事</p> <p>健康福祉部：松田健康課長</p> <p>※報道関係：5名</p>		
議事録			
<p>1. 開会</p> <p>2. あいさつ 防災会議会長 酒田市長 丸山 至</p> <p>3. 議事 酒田市防災会議運営規程第4条により、会議の議長は会長が務めることとなっているため、丸山至市長を議長として議事を進行した。</p> <p>(1) 酒田市地域防災計画修正案について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料1</span></p> <p>(2) 酒田市水防計画修正案について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料2</span></p> <p>酒田市地域防災計画及び酒田市水防計画の修正案の概要について、<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料1・2</span>により事務局の前田危機管理課長が説明した。</p> <p><u>酒田市地域防災計画及び酒田市水防計画の修正案について承認を諮り、異議なしとして承認された。</u></p> <p>&lt;質疑等&gt; なし</p> <p>4. 情報交換・意見交換</p> <p>(1) 山形地方気象台の自治体支援について(山形地方気象台) <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料3</span></p> <p>山形地方気象台の自治体支援について、<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料3</span>により山形地方気象台 栗田次長が説明した。</p> <p>山形地方気象台はこれまで、①気象防災ワークショップ、市町村訪問などによる平時からの「顔の見える関係」の構築、②防災情報の提供による緊急時の連携、③災害後の振り返り・意見交換の3つを柱に、様々な自治体支援を行ってきた。</p>			

来年度は自治体支援を更に強化し、地域防災支援チーム（あなたの町の予報官）が地域に密着して対応していく。

<質疑等>

・酒田市長

災害時には様々な関係機関の皆様が集まってくださるが、現在の災害対策室は非常に手狭である。令和3年度からは災害対策室を拡張して、関係機関の皆様の受け入れ態勢を整え、情報収集や指示が円滑にできるような体制を作っていく。今後とも、関係機関の皆様には災害時の支援をよろしくお願ひしたい。

また、災害時に一番心配なのは飛島であり、情報が入ってこない状況になる。現在、飛島と本土との間の海底に光ケーブルを引く事業を行っている。これにより、カメラを設置してリアルタイムで飛島の状況を把握するなど、これまで以上に精度の高い防災体制をとることができると考えている。

(2) 流域治水について（国土交通省酒田河川国道事務所）

資料4

流域治水について、資料4により酒田河川国道事務所 菅所長が説明した。

これまで上流・中流・下流のそれぞれで行っていた治水対策を、河川の流域全体で考える「流域治水」という考え方に転換する。

<質疑等>

・酒田市長

今後は「流域治水」の考え方が広まっていくと思われる。今後も国・県・流域自治体が一体となって治水対策に取り組むことで、住民の生命・財産を守っていきたい。

(3) 酒田市新型コロナウイルスワクチン接種体制計画（案）について

資料5

酒田市新型コロナウイルスワクチン接種体制計画（案）について、資料5により市健康福祉部 松田健康課長が説明した。

<質疑等>

・庄内保健所長

(1) 感染症対策について

自然災害の中には感染症も含まれており、災害に伴う健康・危機管理という視点では、地域全体で連携してやっていかなければならない。

新型コロナ感染症に対しては、庄内地域の病院・保健所・自治体で緊密な連携をとるようになってきたが、山容病院でのクラスター発生ではその連携が実を結び、様々な支援体制がとられた。このことからわかるように、今後の感染症対策は、病院・保健所だけではなく、地域一体となった対応が必要となる。今後の課題としては、個人情報管理がネックとなってしまう連携ができないという状況をどう解消していくかである。

(2) その他の課題について

また、災害に伴う健康危機管理の観点から、考えてほしいことが2点ある。1点目が、災害時に移動できない要配慮者が増えていることである。2点目が、要配慮者として県が把握している人と市町村が把握している人とで、別々に個人情報を把握しており全体像が見えないことである。

・酒田市長

市としても、それらの課題をどう克服するか検討していく。

(4) 令和2年度市の防災関係の取り組みについて

資料6 コロナ禍における避難所運営訓練

資料7 新津波ハザードマップについて

資料8 津波避難促進施設の避難確保計画について

資料9 要配慮者施設避難確保計画について

資料10 要配慮者のホテル及び旅館への自主避難・早期避難支援制度の開始について

資料11 防災情報の新たな伝達手段の整備について

資料12 マイ・タイムライン作成講習会について

資料13 災害対策本部運営訓練

資料14 飛島地区津波避難対策計画について

資料15 令和2年度の災害発生状況について

資料16 庄内地域における新型コロナウイルス感染確認状況

資料 総合防災システムの導入による災害時の情報収集・発信の効率化～防災DX構想の追求

令和2年度酒田市危機管理課の取り組みについて、資料6～17により事務局の前田危機管理課長が説明。また、酒田市LINEアカウントについても巻末資料によって説明。

<質疑等>

・酒田市長

現在、DX（デジタル変革）に市を挙げて取り組んでいる。LINEについては、既に運用中のゴミ出し検索機能のほか、LINEを使ってワクチン接種予約ができるように検討しているところである。皆様にもぜひご活用いただきたい。

ゆくゆくはわざわざ市役所に行かなくてもいいという環境の整備ができるよう、使いやすい手続のあり方について、令和3年度は精査・研究をしていきたい。

・気象台

資料7の津波ハザードマップに関連して、海水浴中の津波を想定して、全国統一の津波フラッグを作成した。今回の地域防災計画にも地域フラッグの記述をしてもらっているので、普及・啓発をお願いしたい。

・危機管理課長

活用していきたい。各海水浴場で購入する動きがあるとのことである。

(5) その他

5. 閉会

以上